

●どんな実験（工作、観察、体験）ができるの？

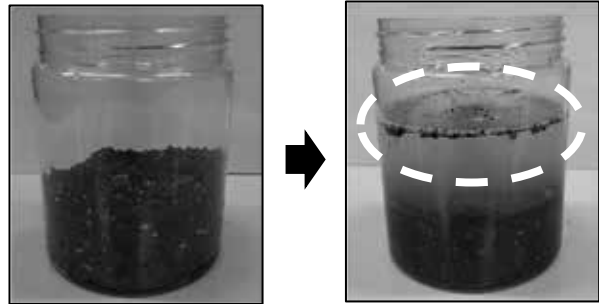
プラスチック製品の多くは、丈夫で長持ちし、また微生物が分解することができないため、一度海に流れ込んでしまうと消えることなく海に残り続け、海洋生物や私たちの生活に様々な悪影響を及ぼしています。海洋プラスチック問題は世界的な課題として取り上げられていますが、私たちの身近な問題でもあります。実験を通して、身近な海でも汚染が進んでいることが体感できます。

●準備しよう

海岸の砂、水、透明な容器、ピンセット又はろ紙、ルーペ

●やってみよう

- ① 海岸で、流木やごみが流れ着いている所の表面の砂を取ろう。
- ② 透明な容器に砂と水を入れて、よくかき混ぜよう。
- ③ 浮いてきた小さなごみをピンセットや、ろ紙を使って取り出そう。
- ④ 取り出したものをルーペで観察しよう。



《どうしてこうなるのかな？》

物質によって、密度（体積1m³当たりの質量）は異なります。プラスチックにも様々な種類があり、種類によって密度が異なります。海岸に打ち上げられるごみの中には、水よりも密度が小さいプラスチックがたくさんあります。海岸で採取した砂に水を加えることにより、水よりも密度の小さいプラスチックごみがどれだけ含まれているかを観察できます。プラスチックは、太陽の紫外線や波の力などで細かくなります。ぱっと見た限りではプラスチックごみが見えていなくても、水を加えると「マイクロプラスチック」と呼ばれる、小さなプラスチック片が浮かんできます。

●気をつけよう

砂浜には、触ると危険な生きものが打ち上げられていることがあります。生きものを見つけても、素手では触らないようにしましょう。

●くわしくしらべてみよう

静岡県環境学習ハンドブック「海洋プラスチックごみから海を守ろう」を見てみよう！

・静岡県「環境学習ハンドブック」https://www.city.shizuoka.lg.jp/041_000142.html